
小走りホラー・二番煎じ

弥招 栄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小走りホラー・一番煎じ

【NZコード】

NZ8595B

【作者名】

弥招 栄

【あらすじ】

シヨート・ショートホラー集です。背中を一瞬で走りぬける戦慄
が、ここにありますか？

(前書き)

この作品は、影之鬼チャモさんの『小走りホラー』に触発されて書いたものです。

この場をお借りして、タイトルの使用を許可していただいた影之鬼チャモさんにお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

では、一番煎じではござりますが、ざわざく

私も小走りでホラーを考えてみた。

朝起きたら、隣りに見知らぬ女が眠っていた。
その隣りには、見知らぬ赤ん坊が眠っていた。
その隣りには見知らぬ少年が……
その隣りには……
その……
俺が。

「かみれま、ぼくはびひなつてもかまいません
小さな手が、一心に合わされていく。
「だからおねがいです。いもうとだけは、ぜつたにしあわせにしないでください」

ずるずると、わたしの後ろを音がついてくる。いくら急いでも、ずるずると。
もう我慢できなくて、わたしは振り向いた。なんだ……
わたしの赤ちゃんじゃない。へその緒でつながったままの……

(ねえ、もつやめてつたら…… フフ)

田覚めは最悪。別れた男の夢を見るなんて。

もつと最悪なのは、あいつが自殺したつてニュースを、今やっていること。

友人に、顔色が悪いぞって言われた。でも自分で分からないんだ。
だって俺、今朝から鏡に映らなくて。

だからほつとん便所つて嫌いよ。
ねえっ。あたしの上にクソしないでっ。

「今日のタン塩、うまいなあ」

俺が褒めると、彼女は何も言わずに、ニッコリと笑った。
……どうして今日は、こんなに無口なんだろ？

「金の斧で頭を割られるのと、銀の斧で首をはねられるの、どちら
がいいですか？」

「どっちも嫌です」

「まあ、あなたはなんて正直なのでしょう。」
褒美にせりあひも……

だるまおとこじゆつよ。ね。こへよ。せの。
べこや。

ぶ～らん～い、ぶ～らば～い。

あの人気が、目の前で笑っていた。三年前に亡くなつてからも、ずっと恋い焦がれていた、あの笑顔。

ぼくは思わず頬を抓つた。痛くない。やっぱり夢だ。いや、それで構わぬ

「ううん。夢じゃないわ。いらっしゃい」

(おしまい?)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8595b/>

小走りホラー・二番煎じ

2010年12月8日02時36分発行